

平成30年度第3回兵庫県入札監視委員会会議 議事概要

開催日及び場所	平成31年3月18日(月)兵庫県私学会館 206会議室		
委員	泉水 文雄 (神戸大学大学院法学研究科教授) 小西 庸夫 (元兵庫県代表監査委員) 松本 隆行 (弁護士)		
	欠席委員：池田委員 細川委員		
対象期間	平成30年8月1日から平成30年11月30日まで		
事務局報告 平成30年度第2回兵庫県入札監視委員会会議の議事概要について			
議案1 入札及び契約手続の運用状況等に係る報告等について			
対象工事の件数	971件	対象期間中の指名停止件数	5件
対象工事の契約金額合計	48,423,793千円	対象期間中の資格制限件数	0件
対象工事の平均落札率	91.1%	対象工事：対象期間中に契約締結した契約予定金額250万円超の工事	
議案2 抽出した工事の入札及び契約手続に係る審議について			
抽出案件の総数		5件	
うち	一般競争入札	0件	
	公募型一般競争入札	2件	
	制限付き一般競争入札	2件	
	指名競争入札	0件	
	随意契約	1件	
委員からの質問・意見及びそれに対する回答	質問・意見	回答	
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	無し		

No.	質 問 ・ 意 見	回 答
1	事務局報告 平成30年度第2回兵庫県入札監視委員会会議 の議事概要について	
2	議題 議案1 入札及び契約手続の運用状況等に係る報告等 について （平成30年8月1日から平成30年11月30日ま での入札・契約状況） ・今回は高落札率の案件の比率が高い。指名競 争や随意契約が多く、特に随意契約は普段の倍 近くあるが理由は何か。	・8月の台風20号、9月の台風20号、21号の災 害応急工事が多かった。他にはポンプ等のメン テナンス工事が多く、既設の施工業者と随意契 約している。
3	議案2 抽出した工事の入札及び契約手続に係る審議 について (1) 公募型一般競争入札 ア 県土整備部（設備課（契約管理課））発注 兵庫県立教育研修所本館外耐震補強その 他電気設備工事 ・落札率が99.3%と高く、応札額の幅も広い理 由は何か。 ・建設と電気設備があるが、建設が先ではない のか。	・14者中12者が超過しているが、教育機関とい うこともあり、他ではない映像・音響機器が4 割を占めており、実態がつかみにくい。 ・最初に撤去工事があるので同時期にやること になる。
	イ 阪神南県民センター（尼崎港管理事務所） 発注 新川水門設置工事（土木工）その3 ・落札率が高く辞退が多い理由は何か。 ・その2とその3の工事を同時発注した理由は 何か。一本でやったほうが効率のよさそうな工 事ではないか。地元業者を育てる観点から分割 発注しているのだろうが、問題はなかったか。	・躯体が大きく、コンクリートを多く使う、事 例の少ない工事なので高落札率になったので はないかと考える。辞退者については、求めて いる施工実績を見て辞退したのではないか。 ・当該工事に続いて機械工工事がある。その工 期に合わせるため、同時発注とした。分割した 理由は、非常に大きな水門であるため、構造的 に二つに分かれていることやコンクリートの 温度管理も個別のほうがやりやすいためであ る。
	(2) 制限付き一般競争入札 ア 県土整備部（営繕課（契約管理課））発注 県立公園あわじ花さじき（仮称）便益施設 棟外建築工事	
	・落札率が高く辞退が多い理由は何か。	・1つは空中回廊や展望台など、土木に近い工 事があること、2つ目は法面に杭を打つとい う、建築工事としては特殊なものであること、 3つ目は同じところで別工事でも発注しており、 調整が必要であることである。

<p>イ 但馬県民局（新温泉土木事務所）発注 戸田橋耐震補強工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落札率が高く辞退が多い理由は何か。 ・技術評価点が殆ど変わらないがこの僅かな差は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の特性として、材料費が6割を占め、価格を抑えられない。また、鮎や鮭が遡上するので、水の濁り等漁協との調整が厳しい。また、上半期発注が多くあり、他で落札して辞退するケースもある。 ・工事成績が0.1刻みなので細かくなっている。
<p>(4) 随意契約 ア 企画県民部（管財課）発注 庁舎ガス消火設備容器取替工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随意契約にしては落札率が低い理由は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接工事費の見積と県の積算基準による諸経費で予定価格を設定したが、取り付けは1日で完了するため、業者が諸経費を低く見積もったためである。
<p>その他：政府調達に関する苦情処理及び建設工事に係る再苦情処理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の対象期間にはなかった旨、事務局から報告した。 	